

認定特定非営利活動法人
れんぎ
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:<http://www.jyfa.org/>
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-3311468 Fax.+86-871-3320658
編集・発行人 初鹿野 恵蘭
印刷協力 日経印刷(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第41号

発行日 2012年(平成24年)5月15日

会報

ボランティア
企画



子どもたちが「小留学生記者＆カメラマン」に扮し、日常の様々を出来事を取材! 小さな壁新聞プロジェクト 2年間の活動報告

プロジェクト概要

「支援先の子どもたちの『生』の声が聞きたいたい。何気なく交わされたボランティア同士の会話をきっかけに、2009年、当プロジェクトは始まりました。現地の子の声を、子ども自身の手で新聞にまとめてもらおう。それを会員に向け発信する。同時に日本の小学校と新聞交換を通じた国際交流を楽しんでもらう。——企画運営すべてを有志が行う、協会初のボラ企画。気づけば活動は3年目に突入し、完成した壁新聞も6校分を数えます。今号では、その2年間の成果をご報告します。



2010年 企画の骨組みが完成。 参加校を募る



▲ただいま壁新聞作成中(製作部の三浦さん、岩沙さん)

記念すべき日本参加校第1校目は、山梨県小菅小学校。企画発起人のひとり平田栄一さんが同校で行った出張授業をきっかけに参加が決まりました。子どもたちは早速「小さな新聞記者」に扮して村の日常を取材。集まった記事は、翻訳・製作班の手で壁新聞の形に編集され、雲南省老村小学校に届けられました。新聞は好評で、同校もすぐ返事の壁新聞を作成。再びそれを小菅村まで届けると、子どもたちは鼻がくっつくほど壁新聞に顔を近づけ、眺めていました。楽しい国際交流の始まりです!

【参加ボランティア(敬称略・順不同)】平田栄一、狩野千尋、唐澤英安、鈴木肇、中村有里子、陳燕芸、佐々木英介、安達武史、岩沙圭、三浦知佳、久保沙登美、及川勝洋、李勤、長屋智実、劉莉、大阪府立門真なみはや高等学校「飛翔の翼」、張雪蓮、刁僅僅、周園園、張南、森理華、井上郁敏、粟田久里子、鄭思宇、林玉梅、吉田奈央、後藤佳奈、高村郁子、庄瀬悠、佐々木坤彪、太田益富、李寅一、荒谷朋子、攸萍、狩野信子、鈴木俊良、高明、雲南大学生協会会員

【学校仲介】山根祥利、東京たまがわワーターリーグラブ、奥脇弘久、大鷲修平

2011年 日雲に集結する頼もしい協力者

雲南滞在中の平田さんと雲南大学の高明先生が中心となり、現地にボランティアチームができました! 雲南省に活動母体ができることで、学校とのやり取りがスムーズになり、より活発な現地活動が可能になりました。また日本では、昨今の厳しい教育事情から、参加校が集まらないという難題にぶつかっていましたが、そちらにも心強い助っ人が。「私を利用してください」。そう申し出てくださったのは、学校新聞製作に精通した奥脇弘久さん。奥脇さんのご仲介により、千葉県新浜小学校の参加が決定し、活動が大きく前進。翻訳・製作班も「なんでもやります」と熱意ある人員が続々と集い、プロジェクトはいよいよ軌道に乗りました。



山梨県小菅小学校の子どもたち

2012年 これからの活動展開

4月現在、日雲の参加校は計8校となり、各校の間では年に1、2度の壁新聞交換が行われています。学校間の交流のほか、会員向け「小冊子版壁新聞」発行、webサイトでの情報公開、協会主催展示会にて壁新聞を初出展など、活動の幅も大きく広がり、2月には大鷲修平さんのご仲介により、東京都多摩第二小学校の参加も決定しました。当初、ボランティアだけでどこまでできるかと不安もありましたが、各小学校の先生方や地域社会、多くの皆様のお力添えあって活動は順調に進んでいます。今後は、お馴染み「小さなカメラマン」とタグを組み、さら

▲日本の小学校が制作した壁新聞を真剣に見つめる、老村小学校の子どもたち。「日本の朋友はなにを食べているの?」「どんな遊びをするの?」と興味津々。

に壁新聞の内容を充実していかなければと思っています。子どもたちとボランティアが発信する学校通信、どうぞ今後の展開にもご期待ください!



これまでに完成した 壁新聞一覧表

[日本版]
第1号 山梨県小菅小学校(2010年)
第2号 東京都和泉小学校(2011年)
第3号 千葉県新浜小学校(2012年)
第4号 東京都多摩第二小学校(作成中)
第5号 山梨県小菅小学校(作成中)

[雲南版]
第1号 昆明市日中友好尋甸老村僑心小学校(2010年)
第2号 紅河州ハニ族族自治州白雲小学校(2011年)
第3号 楚雄族自治州老木壩小学校(2012年)

►►►プロジェクトの詳細は、www.jyfa.org/2_education/edu_9.html

「飛翔の翼」発足!!
小さな壁新聞・翻訳ボランティアチーム
大阪府立門真なみはや高校



2012年、門真なみはや高校では、協会「小さな壁新聞プロジェクト」へのボランティア協力をきっかけに、留学生の皆さんによる翻訳チーム「飛翔の翼」が結成されました!

チームを率いる白石素子先生によると、翻訳ボランティア活動は、日本語がまだ流暢と言えず不安を持っていましたが、自信を取り戻すきっかけになったとのこと。自らの中国語能力によって人の役に立つことに喜びを覚えた留学生の皆さんのが、自主的に翻訳チームを結成しました。

小さな壁新聞プロジェクトで翻訳ボランティアとして大活躍してくださっている「飛翔の翼」メンバーからのメッセージをご紹介します。

●ひと月前、雲南の小学生のために壁新聞を翻訳しました。日中両国の友好を感じました。生まれてはじめて人のために翻訳をしましたが、それはとても嬉しい経験で、見返りを求めるボランティア活動はいいものだとつくづく思いました。これからもっと、ボランティアを行いたいと思います。今回も真剣に取り組み、何度も見直しました。簡単な日本語だと思っていたのが意外に難しく、上手くいかないところもありました。次やるときは、もっと完璧なものにして、中国の子どもたちに日本の文化を伝えられるよう頑張りたいと思います。

(2年6組・徐永健さん)



「25の小さな夢基金」
第4期生卒業式と「夢を語る」
同窓会ふれあいの旅 日程確定!!

2012年6月27日(水)~7月4日(水)

夢基金第4期生の卒業式と「夢を語る」同窓会参列の他、夢基金生の故郷・臨滄市滄源を訪ねます。皆様のご参加、お待ちしております!



詳細は会報と同封のチラシをご覧ください。
【お問い合わせ】03-5206-5260(平日10時~18時)

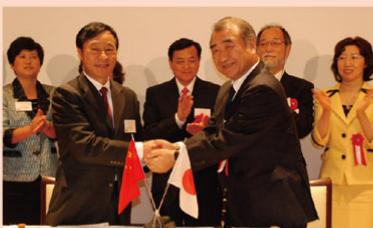
初来日！雲南省臨滄市、経済と文化の日中交流会開催！

2012年春、雲南省臨滄市が日本で投資誘致等を目的とした経済交流会を行いたいとの打診があり、聯誼協会は日中経済文化交流促進のため、大阪と東京における二度の経済交流会を開催と視察手配に全面的に協力しました。

対東南アジアの玄関口として重要視される雲南省の中でも、臨滄市は隣国ミャンマーと国境を接する地域であり、内外各国において今注目を集めています。豊富な生産資源や地下資源を生かして対外開放戦略を進めており、様々な企業の進出によってASEAN経済圏の要衝に発展、国境経済協力区域の指定を受け、市内では6つの開発プロジェクトが進められています。臨滄市が過去日本において経済交流会を開催したことはなく、今回、聯誼協会の協力により初めての来日経済交流会が実現をみました。臨滄市は茶の故郷としても有名で、経済交流会では、世界に誇る茶業をはじめ、新病院「青華医院」建設に伴う技術協力など、日本企業にとって魅力的な投資プロジェクトが紹介されました。



▲経済文化交流会は大阪・東京共に満席の大盛況！



◀大阪会場にて、臨滄市人民病院查学安院長（左）と上海森茂国際健診センター三木秀隆副董事長による提携調印式



◀説明会では中国伝統の茶芸も披露されました
▲いつもありがとうございます！
新井淳一協会顧問もご活躍

◀お茶を試飲する于淑媛・大阪副総領事（右）。
お隣は訪日団団長の楊洪波・臨滄市政府高級顧問

交流会では、各方面から日本企業が集い、定員を超える大盛況となりました。立地条件の良さに注目した日本側参加者からは、経済特区の現状や企業進出の状況など、現実的な質問が飛び交いました。また、技術評論社と共同制作した書籍『パソコンで楽しむ愛と友情のトンバ文字』を聯誼協会から臨滄市政府へ贈呈したり、懇親会では臨滄市民族歌舞団9名による民族舞踊が会を盛り上げたりと、文化面の交流も促進されました。

雲南省臨滄市という遠く離れたところから来る一行は、日本へ存分にその魅力をアピールし、今回の視察交流を大成功に収めました。



◀東中國大使館領事部・
劉亞明総領事「日本の友好と熱意に感謝申し上げます」



◀臨滄市双江自治県民族歌舞団による民族舞踊も披露されました



◀和服のゲストと民族歌舞団の皆さん。鮮やかな民族衣装の競演です



◀交流会ではたくさんの通訳ボランティアがご活躍くださいました！
どうもありがとうございます。

【ご協力くださった皆さん（順不同・敬称略）】
平松宏子、王雁苗勇、薛童、山崎由香、陸小宇、俞斌、倪程悦、衣明穗、薛鴻清、平松康弘、平松明日香、郭圭いか、韓澈、趙彭泰、劉玲嬌、貢貴春子、陳林妹、張南、木本一彰、寺内明子、楊棟、及川勝洋、鄭思宇、張靜風、李勁、池上智子、森田さくら、大沼春麗、嚴芸紅、頓楠、高在光、吉光孝治、吳偉、岳海霞、塙内美恵子、梅川理恵、北原裕子、日々岩哲、滝澤崇

【雲南省臨滄市来日経済文化交流会詳細】

2012年4月2日 帝国ホテル大阪

後援：中華人民共和国駐大阪総領事館

ご挨拶：中国駐大阪総領事館 于淑媛副総領事

上海森茂国際健診センター 三木秀隆副董事長

NPO法人産学連携推進機構 妹尾堅一郎理事長

日本企業参加者：約50名

2012年4月5日 新宿京王プラザホテル

後援：中華人民共和国駐日本大使館領事部

ご挨拶：中国大使館領事部 劉亞明総領事

日本経済研究センター 新井淳一会長（当協会顧問）

サッポロホールディングス（株）

岩間辰志名誉顧問（当協会顧問）

日本企業参加者：約100名



劇団道化の皆さんと協会チームで撮影作業。理事長曰く、道化の皆さんには「プロの引越し屋のような手際の良さだった！」？



2012年4月10日～15日 NHK福岡放送局NHKギャラリー

二度目となる福岡NHKギャラリーでの写真展。今回は、雲南省での活動の写真に加え、「小さな壁新聞」、「小さなカメラマン」、そして雲南省少数民族の子どもたちが東日本大震災被災地の子どもたち宛に描いた絵手紙など、より充実した展示内容となりました。また、福岡のNPO法人「劇団道化」が搬入から運営まで全面的に協力してくれた、前回に増して、活気ある空間を創りあげることに成功。新たに中国駐福岡総領事館のご後援を頂いたこともあり、会期中のご来場者は200名近くに達し、前回を大幅に上回りました。

4月12日には、NHKの生放送があり、福岡入りしていた初鹿野理事長がインタビューに答えました。現地会員のご協力はもとより、福岡の有名劇団である道化の皆さんお手伝いしてくださったことも追い風となって、福岡での協会の知名度も少しずつアップしているかも…？福岡の皆さん、次回の上陸を楽しみにお待ちください！

【ボランティア協力（敬称略・順不同）】

樋口忠治、波元辰、鈴木肇、佐々木英介、初鹿野恵蘭、劇団道化の皆さん

外務省 2012「日中国民交流友好年」公式行事に認定されました！

協会活動写真展
「笑顔を君に」
只今全国巡回中！

2012年2月16日～2月20日 多摩市・京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

●ボランティアスタッフ岩沙圭さんより

2月18日（土）、写真展「笑顔を君に」の様子を拝見してきました。今回の展示は、雲南省少数民族の子どもたちや現地の風景の写真27点、少数民族の子どもたちが「小さなカメラマン」として撮影してくれた写真10点。日本と中国の小学校の間でやり取りされている「小さな壁新聞」6点です。

会場を行き交う人々は、緻密な刺繡の色鮮やかな民族衣装や子どもたちの素朴で屈託のない笑顔に興味をひかれた様で、立ち止まってゆっくりご覧になっている方もしばしば。初めての展示となった「小さな壁新聞」の反応もまことにありました。私もボランティアとして壁新聞の編集を担当しましたが、こうして並べてみると、日本と中国の小学生がそれぞれ描いてくれた絵や作文の違いと共通点などが、とても面白いです。

ショッピングセンターの連絡通路を利用した簡素な会場ではありましたが、やんわりとながらも雲南省少数民族の空間が醸し出されていたように思われます。

なお、当日は多摩テレビの取材が行われ、2月26日（日）～3月3日（土）の間、3分間の映像が放映されました。



「心の支えに」被災寺に日中の仏画を寄贈

協会が行っている「東日本大震災支援交流プロジェクト」の一環として、初鹿野恵蘭理事長ら6人が3月17日、震災による津波で本堂が全壊した宮城県東松島市の「長音寺」を訪れ、副住職の秋山公純さんに仏画などを7点を寄贈しました。

今回の活動は、中村有里子理事が被災したお寺の報道番組を見て「うちにある仏画を使ってもらえば」と思いついたのがきっかけ。協会のネットワークを通じて地震や津波の被害に遭ったお寺を探したところ、海岸のそばにあって本堂が津波で流されてしまった「長音寺」と連絡が取れました。

長音寺は1416年に建立された曹洞宗の古刹。お寺のある野蒜地区では、震災で270人以上が死亡、住職の秋山道成さんも犠牲になりました。震災から1年以上がたち、本堂と完成3ヶ月あまりだった檀信徒会館があった場所は更地にされ、約200のお墓が並んでいます。現在は弟の公純さんがお寺の移転に向けて努力されています。

秋山さんによると、被災者のほとんどは仮設住宅に住んでおり、連絡の付かない檀家も多いとのこと。秋山さんは「一日も早く長音寺の檀家さんに公開できるよう復興を目指します」と、再建への決意を話してくれました。



【訪問者】近藤鉄一名古屋支部長、佐々木英介会員、木本一彰会員、大石万里さん

【ボランティア協力（敬称略・順不同）】
大賀修平、唐澤英安、中村有里子、奥脇弘久、安達武史、岩沙圭、平田栄一、狩野千尋、鈴木肇、佐々木英介、東郷浩、事務局（滝澤崇、高橋瑞季）

「笑顔を君に」の写真は、
北原ライフサポートクリニックでもご覧頂けます。

協会の北原茂実理事が代表を勤める医療法人社団KNIの北原ライフサポートクリニック・ホールにて、子どもたちの写真を常設展示しています。
北原ライフサポートクリニック
〒192-0904 東京都八王子市子安町4-7-1
ササンスカイタワー八王子1階



その① 日本の児童演劇がつなぐ! 雲南少数民族子どもの笑顔 5000人公演

福岡生まれの児童劇団「NPO法人劇団道化」は1965年に創立、現在も年間400以上の舞台をこなすプロ集団です。2004年に初参加した上海国際児童演劇祭でいきなりグランプリを受賞して以来、中国での公演や現地劇団との協働を積極的に行い、児童劇を通じ、夢と希望の溢れる日中交流を行ってきました。上海国際児童演劇祭でグランプリを取得した作品「しょうようじどうしゃ『じぶた』」は、今中國で最も有名な児童劇のひとつとなっています。実はその「じぶた」を今年9月、雲南の協会支援小学校で上演することになりました。実際に演じるのは、中国国立の児童芸術劇院の俳優たち。2週間かけて雲南中を走り回り、10校ほどで公演を行う予定です。劇団道化、芸術劇院、联谊協会が力を合わせて、少数民族の子どもたちに夢を届けます!

[NPO法人 劇団道化] 代表:篠崎省吾 所在地:福岡県太宰府市朱雀6-3-18 ホームページ:<http://www.douke.co.jp>

2012年は、日中國交正常化40周年のメモリアルイヤー。協会でも、秋にスペシャルな活動を予定しています。現在着々と進行中のふたつの素敵な企画を紹介! いずれも外務省2012「日中國民交流友好年」公式行事です。



さうすぐ
雲南のみんなに
会いにいくよ!



2008年、四川大地震の被災地公演で、「じぶた」は5000人の子どもを勇気付けました

日本を代表する舞踊家、
寒水泰江先生が日本の心を届けます!

雲南公演では子どもたちも
たくさん参加する予定



その② 日本の踊りがつなぐ! 雲南の若者と少数民族の郷、 魂の文化交流

協会のチャリティー忘年会でもおなじみの「ブランニューダンスマーケット」を主催する能見広伸さんと、その踊りの師匠で、日本を代表する舞踊家・寒水泰江さん。2011年冬、お2人の稀有な才能と感性を融合させたダンス集団「寒水・能見ダンストゥループ」が誕生しました。今年12月、「寒水・能見ダンストゥループ」は、協会と協力し、子どもから大人まで、最大40人のダンサーによる公演を雲南省昆明市の大学と臨滄市で行う予定です。演目は日本の伝統舞踊をはじめ、多岐に渡る創作舞踊が中心となり、実現すれば、メモリアルイヤーに相応しい文化交流になることは間違ひありません。日本の伝統を、日本人の魂を、雲南少数民族のもとへ—12月に向けて、今着々と準備を進めています。

[寒水・能見ダンストゥループ]
代表:寒水泰江 副代表:能見広伸
所在地:東京都新宿区新宿8-9-16
(塞水ダンシングファクトリー)
ホームページ:<http://kansuidf.com/>

初出展!「地球を考える」アースデイ2012東京!

4月22日は「地球の日」。民族・国籍・信条・政党・宗派をこえて、だれもが自由な方法で、地球環境を守る意思表示をする国際連帯行動「アースデイ」は、1970年にアメリカで始まりました。日本でも2000年から毎年「アースデイ東京」が開催され、2日間で10万人以上が訪れます。

今年の「アースデイ東京」は4月21日と22日に代々木公園で行われ、協会は初めての出展を果たしました。国際協力活動に関心のある人が集まるグローバルフェスタとは一味違い、会場には口ハスやエコライフに興味を持つおしゃれな若者が多い印象。2日間とも生憎のお天気でしたが、客足が途切れる事なく、日頃はなかなか接点のない層の方に、雲南省や少数民族の現状はもとより協会の存在を知って頂く貴重な機会となりました。

【ボランティア協力(敬称略・順不同)】

近藤鉄一、佐々木英介、李勃、姓名樹理、久經智弘、張南、寺内明子、弓立伸也、滝澤崇、事務局(高橋瑞季、山田美葉)



音楽で被災地支援! MUSIC MADE US HAPPY!

BIGMADE MUSICは、音楽製作などを手がける会社で、かつては協会の四川大地震支援活動に協力くださり、音楽を通して社会貢献も行っています。

3月末、副社長の佐藤真治さんが協会事務所にいらっしゃり、昨年9月に発売した所属アーティスト10組によるオムニバスCD「Next Frontier」の売上げ50%及びライブ会場などに設置した募金箱に寄せられた計205,219円を、協会「東日本大震災支援交流プロジェクト」へ寄付くださいました。10組のアーティストは、それぞれが様々な悩みや問題を抱えながら、それでも音楽を通して誰かを元気付けて、被災地の方へ自分たちが出来る事をしたい、と今回の企画にご賛同くださったとのこと。また、新たに、5月初めに発売されたアルバム「再誕~Song of Earth~」の売上げの一部もご寄付してくださることになりました。

協会「東日本大震災支援交流プロジェクト」は、雲南少数民族の子どもたちとの交流を通して、被災地の子どもたちが、前に進む勇気と未来への希望を見出すお手伝いをします。素晴らしい音楽を聴くことが、日雲の絆を深めることに繋がる一事なことだと思いますか? BIGMADE MUSICの皆さん、どうもありがとうございます!

●紹介のCDは、BIGMADE MUSICサイトよりご購入頂けます。
<http://www.bigmade-music.com/>



BIGMADE MUSIC佐藤副社長より、思いがたくさん詰まつたご寄付を頂きました!

連載

こんにちはCSR

現地の価値観に 寄り添った支援を



昆明市郊外の蘭栽培会社を視察。
松井さんは農業のエキスパート

協会を長年支えてくださっている法人会員からのメッセージ

第5回 株式会社 BYM

会社概要 1998年、環境に負荷を与えず、地球と共存する社会を作ることを理念に設立。落ち葉が山や森で堆肥化する仕組みに着目、自社開発した鉄中心の活性液で土壌本来の力を引き出し、化学肥料を使わない農業の実現を目指す。

所在地: 東京都三鷹市下連雀2-14-15

TEL: 0422-47-0439 FAX: 0422-48-6560

社長の松井和樹さんは2010年12月、異業種交流会の忘年会に顔を出した初鹿野惠蘭理事長と知り合いに。翌年6月、昆明で開かれたアセアン環境会議に同行した後、農業指導などのため毎月のように雲南を訪れています。当初は日本のルールや慣習が通じないことに慣っていた松井さん、ある時ふと、それは「日本人の価値観の押し付けに過ぎない」と気付き、それ以来、支援活動を通じ「本当の幸せの価値ってなんだろう」と考えてきました。

日本人の価値観で物事を見ると、中国やアセアンの人を見下ろしているように感じることがあります。「見下ろすのではなく、現地の人の立場で物事を考えた時、本当の支援やビジネスが見えるんではないでしょうか?」アジア抜きで日本経済が成り立たない今、松井さんは知人や友人にこう呼びかけます。「できるだけ発展途上の場所に行き、人々の生活を自分の目で見て、その場の価値観を中心感じて欲しい。それが必ず今後の財産になる」と。

会社理念として掲げる「地球との共存」。食い止めなくてはならないのは「公害のような環境変化と戦争です」。環境汚染をなくす同社の取り組みについて「儲からない慈善事業をやっていいのか」という社内の反発はありますが(笑)、BYMはしっかりやりたい! 松井さんの願いは「自分ひとりが賛成するより、100人が普通に生活できるようにしたい」。グローバルな視野から「中国に対してやっているのは未来への投資です」。

*CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任): 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

協会ボランティア通信

連載 第3回 裏方の仕事に

充実感

鈴木 肇 さん



頼れる裏方、鈴木肇さん

「小さな壁新聞プロジェクト」

でも活躍してくださっています

皆さんも協会の写真部長、鈴木肇さんの作品を一度は目にしたことがあるはず。なぜかって? 社会勤めの傍ら、JR「時刻表」の表紙を飾った数々の写真を撮影してきたのが、実は鈴木さんなんんです。

2004年、初めて中国へ。北京郊外で物乞いをする子どもやバラックの住宅を見て、「普段着の中国を撮ってみたい」と思い立ち、翌年「子どもたちの支援なら」と協会会員に。撮影目的の訪問は17回に上るそうです。

2008年北京五輪の開幕前テロが発生した当日はたまたまウルムチに滞在しており、公安から取調べを受けることに。とっさに協会の名刺を差し出し「教育支援の現地調査にきており、怪しい者ではありません」と事なきを得たうえで「それ以来、名刺はお守りですよ」と笑います。

鈴木さんは、子どもたちにカメラを持たせ写真を撮ってもらう「小さなカメラマン」の企画を2年以上かけて実現させました。「作り笑顔のない、現地の子どもたちのリアルな表情を日本の同年代の子どもに見てほしい」と話しています。

協会については「お金を出す人、表に立つ人もいる。でも裏方がしっかりと活動は成り立たない。僕はずっと裏方に徹します」と控えめ、「裏方は充実感があつて会社の疲れが取れる。会社では『ボランティアでリフレッシュしてきました』なんと言ふんですよ」

協会に入っているいろんな人と出会えることを「お金で買えない人生の宝」と言ってくださいます。いえいえ、協会にとって鈴木さんこそ宝物です。

2011年度
第4回役員顧問会

「聯誼協会号」乗組員大集合！

桜のつぼみがほころび始めた3月24日、2011年度最後となる日本雲南聯誼協会・役員顧問会が開催されました。

会員やたくさんの市民の皆様に支えられ、協会は2010年に設立10周年を迎えました。この10年、雲南省少数民族の子どもたちをはじめ、雲南と日本の若者とともに有意義な活動を行ってこれたのは、会員の皆さんはもちろんのこと、役員・顧問の陰なる奮闘があったからこそです。10年の節目には聯誼協会号乗組員の勇姿を残すと、役員顧問職員揃っての記念写真撮影が前々から企画されていましたが、この日、一年越しに実現することになりました。

記念となる役員顧問会と懇親会には、東京本部事務局に程近いホテル「グランドヒル市谷」で開催され、役員顧問に加え、民族衣

装をまとった各支部代表や職員等総勢29名が参加。6年間職員を務めた七田さんも愛娘を連れて参加し、会場に華を添えました。

協会の役員顧問はそれぞれの役割を担っていて、誰ひとり、名前だけの方がいないのが自慢であり、誇りでもあります。この先、新しい10年も、知恵を出し合い、共に支え合って社会に役立つ活動を行っていくと決意を新たにした節目の役員顧問会となりました。



女性の力が世界を変える！?

初鹿野理事長、中国大使館国際婦人デーパーティーに参加



左から初鹿野理事長
中国大使館領事部・閔妍さん
東京大学・河原範枝さん



日の女性の合唱で大盛り
上がり。マイクを持つのは
芹洋子さん

◎国際婦人デーとは… 1904年3月8日にニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたことで始まり、1910年にコペンハーゲンで行なわれた国際社会主義者会議が「女性の政治的自由と平等のためにたたかう」記念の日とするよう提唱。1975年（国際婦人年）の3月8日以来国連がこの日を「国際婦人デー」と定めたものです。中国では「三八婦女節」と呼ばれ、女性だけにゆるされる祝日となります。

3月8日、恒例の中国大使館・国際婦人デー記念パーティーに、当協会の初鹿野理事長が招待を受け出席しました。今年の参加者は野田首相夫人実さんをはじめ、日本各界や在日華僑・華人を代表する女性・大使館の女性外交官等合わせて400名余り。日中正常化40周年の特別な婦人デーに、程永華駐日大使夫人の汪婉さんは、「日本の女性が日中の草の根交流活動を積極的に行っていることに敬服している」「小さな草の根交流が集まれば必ず必ず日中の国民感情を改善する大きな流れになると信じている」とお話しされました。

パーティーでは、楊琴の演奏や变面、太極拳などが披露された他、大使館の女性外交官と東京都日中友好協会の女性会員が中国の歌「大海啊、故郷」を合唱、歌手の芹洋子さんが飛び入り参加をするなど、大いに盛り上がりました。

広がる友好の輪！ 「さくらホーム山形」竣工祝賀会で 協会活動をPR！

4月1日、山形市に全80床の特別養護老人ホーム「さくらホーム山形」がオープンしました。さくらホーム山形を運営する社会福祉法人さくら福祉会の佐藤芳明理事長は、協会の会員であり、顧問も務めてくださっています。今回、佐藤理事長のご厚意により、山形市内のホテルで行われた竣工祝賀会に協会代表が出席、300名近くの参加者の前で協会活動をPRしました。

オープンを5日後に控えた3月27日、協会の初鹿野惠蘭理事長、中村有里子理事、林則幸会員が雪景色の美しい山形駅に降り立ちました。一行はまず、オープン前のさくらホーム山形に向かい、健康維持のためのフィットネス設備や、キッチンを完備した個室を視察しました。夕方から市内ホテルで開催された祝賀会には、山形県知事の吉村美栄子氏をはじめ地元名士、さくらホーム関係者など約280名が出席。佐藤理事長は、その盛大な式典で、協会の教育支援活動を紹介してくださいました。現在、山形県の協会会員は30名以上。出羽の地に、日雲友好の輪が広がっています。



【出席者（敬称略・順不同）】

初鹿野惠蘭、杉谷隆志、桂正徳、大鷲修平、初鹿野薰、中村有里子、遠藤功（以上理事）、村松健児、佃純誠（監事）、新井淳一、岩間辰志、小澤文穂、片岡巖、東郷鶴、樋口忠治、曹光、根岸恒次（以上顧問）、寺内明子（大宮支部長）、近藤森雄（名古屋支部長代理）、山田美葉、高橋瑞季、中洲慶子、滝澤崇、林則幸、北原聰子（以上事務局）、七田怜、狩野千尋（以上元職員）

連載

鏡頭裏的世界

レンズの中の世界 No.11 伝統的タクシー

昆明ではもう見られなくなった三輪バイクも、地方ではまだ現役。3人まで乗れ、8元も出せば町中どこでも運んでくれます。汚れた荷物も載せてくれるので、農家の方にも大人気。但し、保険には入っていないのでくれぐれも事故にご注意を。

（撮影：林娜 2012年4月 雲南省昭通市大關県）



データ : yunnan@jyfa.org

郵送 : 〒162-0846 新宿区市谷左内町21-13 1階
日本雲南聯誼協会「レンズの中の世界」係

イベント情報

外務省 2012日中國民交流友好年公式行事
合同写真展「アジアの子どもたち」

日時：5月25日（金）～27日（日）

場所：神奈川県民センター展示場

第12回定期総会

日時：6月17日（日）

場所：八王子学園都市センター

外務省 2012日中國民交流友好年公式行事
全国巡回写真展「笑顔を君に」inさいたま2nd!

日時：6月19日（火）～23日（土）

場所：さいたま市市民活動サポートセンター

「25の小さな夢基金」

第4期生卒業式&「夢を語る」

同窓会ふれあいの旅

日時：6月27日（水）～7月4日（土）

場所：中国雲南省昆明市他

外務省 2012日中國民交流友好年公式行事
全国巡回写真展「笑顔を君に」in愛知

日時：7月31日（火）～8月12日（日）

場所：知立市文化会館喫茶室

外務省 2012日中國民交流友好年公式行事
日本の児童演劇が繋ぐ

中国省都と少数民族の

子どもの笑顔 5000人公演

日時：9月1日（土）～9月15日（土）の予定

場所：中国雲南省

合同主催：NPO法人劇団道化、

中国児童芸術劇院

編集後記

先日訪れた東松島・長音寺の住職の言葉が耳に残っています。「震災から1年すぎると各種の助成もなくなります。お寺の再建はいつになるか分かりません」。震災からの復興には長い時間がかかります。それは復興を誓った子供たちが成長し、「絶望のふるさと」を「希望の地」へと変えいくために必要な時間なのかもしれません。雲南であれ、被災地であれ、その希望の灯をともす一つの芯になるのが教育です。どちらも息長く支援できればと願っています。（編集長・木本一彰）



[左]白雪さん
雲南師範大学4年生
夢：世界旅行、キリマンジャロに登ること
大切なものは：弟
尊敬する人：周恩来
趣味：旅行、テコンドー

[中]譚笑さん
雲南師範大学3年生、2012年スピーチコンテストの優勝者
副賞の1週間日本研修旅行に小躍りして喜んでいた。
夢：日本へ行くこと／大切なものは：健康
尊敬する人：松野先生
趣味：手芸、アート

[右]周芸琳さん
雲南師範大学3年生
夢：日本の漫画をたくさん買って読むこと
大切なものは：健康
尊敬する人：両親、老師
趣味：書道、アート、テニス